

[05_02]情報処理教育広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/6767958>

出版情報：情報処理教育広報. 5 (2), 1983-01. Educational Center For Information Processing,
Kyushu University

バージョン：

権利関係：



応報

目 次

巻 頭 言	上 田 幾 彦	1
報 告		
次期システムの機種選定の経過と結果について		2
「授業担当教官懇談会」の報告		4
次期システムについてのアンケートとその結果		7
次期システムの紹介	藤 村 直 美	19
資 料		
次期システムのFORTRANについて	赤 司 房 子	40
NEAC ACOS-6からFACOM OSIV/F4へ ファイルを移し換える方法	藤 村 直 美 成 富 稔 彦	54
教育の広場		
PL/I教育の経験から	平 田 正 敏	57
センターより		
ACOS-6 システムのバージョンアップについて		63
1200BPS の電話回線の使用について		63
運営委員の改選について		64
新しい調査依頼票について		65
昭和57年度後期授業一覧		67
編 集 後 記		68



センター電話番号

代表(092) 641-1101
夜間(092) 641-4047

○ 通話用

階	室名	電話番号 (内線)
5	センター長室	2650
5	次長室	2651
5	助手室	2652
3	講師控室兼相談室	2653
5	プログラマ室	2654
6	計算機管理室	2655
5	事務室	2656
6	受付	2657
4	オープン端末室	2658

○ 計算機接続用

種別	電話番号
構内電話回線 (300BPS)	18
構内電話回線 (1200BPS)	2659, 2660
公衆電話回線	641-4538

○ 端局

端局名	電話番号
医学部端局室	(81) 3176
教養部端局室	(82) 219

表記法

○ 参考箇所の表記法

本号記事の中で、他の部分を参照して欲しい場合には、“(→x m, …)”のように表す。
xは記号の標題(省略時は同一標題の他の箇所を表す)などの略字, mは節や項目番号, …は複数箇所を意味する。

x: 例えば, マニ(マニュアル)を表す。

m: 節などは1.4, 項目番号などは10, (5), ③, 一連の節や項目番号は1.4~1.7, 10~15のように表す。 mを省略するとx全体の参照を意味する。

○ 項目指定の表記法

本号記事の中で、コマンドなどの項目を指定する場合には、特に断らない限り次の表記法を用いる。大カッコ({ })は選択項目で、その中の一つを必ず指定する。

$\left\{ \begin{array}{c} a \\ b \\ \vdots \\ z \end{array} \right\}$ のzのように下線が引かれた項目は、省略時にこの値がとられることを意味する。

- 角カッコ([])は、指定してもしなくてもよい項目を表す。
- 日本語または英小文字は、必要なもので置き換える。
- 英大文字や特殊文字はそのとおりに書く。
- 反復記号(…)は繰返しを意味する。
- $\underline{[ab]}$ xxx または、 $\underline{[axxb]}$ x は、 $abxxx$ または $abxxbx$ を ab と省略して書けることを意味する。